２００７年2月9日

A-TS 07-43　九州先進エンジンテクノロジー研究会
第３回研究会　議事録

九州大学大学院
北　川　敏　明
森　上　　修

日　　時　　２００７年2月9日（金）１４：００～１６：００
場　　所　　福岡リーセントホテル
出席者数　　５５名（うち委員出席１２名, 石田正弘, 北川敏明, 齊藤弘順, 島筒修治, 副島光洋, 田坂英紀, 田島博士, 濱武俊朗, 村瀬英一, 森上修, 森脇博, 和栗雄太郎）

内　　容

話題提供

「直接噴射式ガソリンエンジンの現状と将来動向」

小　池　　誠　　氏　（(株）豊田中央研究所）

直接噴射式ガソリンエンジンについて，話題提供がなされた．実用化されてから 10 年が経過し, 世界的におよそ 10%のシェアに達している本方式エンジンの混合気形成と燃焼技術について, これまでの変遷および主な研究開発と今後の動向の説明がなされた. 混合気形成に関しては, ウォールガイド式からスプレーガイド式に移行してきた. また, 燃料噴射弁に関しては現在ソレノイド式が主流であるが, ピエゾ式が導入されつつある. 直接噴射式ガソリンエンジンにおける課題は, ピストンおよびシリンダ壁への燃料の付着，ノズル・バルブ・ピストンへの堆積物，コストであり，これらの解決が望まれる. ノズル形状に各社による違いがあるなど, 本方式エンジンは依然最適化に向けた発展段階にあると思われるが，今後もシェアを増していくものと思われる.

以上